

大妻女子大学「細谷夏実ゼミ」

2015年から、「細谷ゼミ」では、

大妻女子大学「能登で学ぶ」「生きる力」と「地域の魅力」
大妻女子大学社会情報学部
環境情報学専攻
森南陽



石川県鳳珠郡穴水町を中心に能登の里海里山の保全につながる活動や子どもたちへの海洋教育などの活動を行っています。2018年にはゼミ活動がきっかけとなり、穴水町と大妻女子大学が包括連携協定を結びました。ゼミ生が協力して商品化された「鹿波椿茶」は2020年の石川県エコデザイン賞を受賞し、穴水町のふるさと納税の返礼品にも採用されています。私自身もゼミの一員として、今夏、

現地を訪れる機会をいただきました。2024年1月の震災からゼミとして約2年ぶりに訪れた能登では、被災された方々から当時の状況やその後の暮らしについて詳しくお話を伺いました。その中で特に印象に残ったのは、「まさか災害が自分ごとになるとは思わなかった」という言葉でした。



さんの「生きる力」を身近に感じられたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。

この経験をもとに、2025年10月18・19日に開催された大妻祭(文化祭)では、ゼミとして例年通り「能登展」を出展しました。現地を訪れたゼミ生による展示や、能登地域の物産販売などを行いました。能登展には、「毎年旅行で能登に行っていたのよ」と懐かしそうに語る方や、「復興の様子を知りたい」と関心を寄せてくださる方など、リピーターの方も含め多くの方がいらしてくださいました。

この活動を通じて、能登の復興を心から願う方々の思いの強さを実感し、私自身も今後、少しでも能登の力になりたいという気持ちが一層強まりました。

「細谷ゼミ」では、人と地域をつなぎ、地域の魅力を発信するだけでなく、ゼミ生一人一人が現地で感じたことを学びに変えることを大切にしています。今後も細谷ゼミでは、人とのつながりを大切にしながら、能登の魅力と今を多くの方々へ伝える活動を続けていきます。



大学祭での能登の物産販売、売り上げを能登の方たちにお返りすることができました。

2024年能登半島地震 ボランティア活動の取り組み Series 2 やさしさのリレー

大学のボランティアセンターでのこと。能登にボランティア活動に出かけた大学生が、「子どもの頃に東北大震災でボランティアの人達に助けてもらいました。今度は、自分の番だと参加しました」と話してくれた。永六輔(1933~2016)さんの詩の一節に次のようにある。「生きているということは誰かに借りをつくること 生きているということはその借りを返してゆくこと」...

「生きる力」と「地域の魅力」

大妻女子大学「能登で学ぶ」「生きる力」と「地域の魅力」

大妻女子大学社会情報学部 環境情報学専攻 森南陽

石川県鳳珠郡穴水町を中心に能登の里海里山の保全につながる活動や子どもたちへの海洋教育などの活動を行っています。2018年にはゼミ活動がきっかけとなり、穴水町と大妻女子大学が包括連携協定を結びました。ゼミ生が協力して商品化された「鹿波椿茶」は2020年の石川県エコデザイン賞を受賞し、穴水町のふるさと納税の返礼品にも採用されています。私自身もゼミの一員として、今夏、

現地を訪れる機会をいただきました。2024年1月の震災からゼミとして約2年ぶりに訪れた能登では、被災された方々から当時の状況やその後の暮らしについて詳しくお話を伺いました。その中で特に印象に残ったのは、「まさか災害が自分ごとになるとは思わなかった」という言葉でした。

町は一見すると穏やかな日常の風景が戻っているようでしたが、よく見ると道路の段差や瓦が落ちた屋根など、震災の爪痕が今も残っていました。これまで大きな災害を経験したことのない私にとって、写真で見えていた光景を自分の目で見ることで、災害が「他人ごと」ではないことを改めて実感しました。

一方、「あなみずスマイルマルシェ」では、多くの人で賑わう店の様子や、地元の方々の温かい笑顔に触れ、地域を愛しながら前向きに生きる姿勢に強く心を動かされました。能登の皆さん、「生きる力」を身近に感じられたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。

この経験をもとに、2025年10月18・19日に開催された大妻祭(文化祭)では、ゼミとして例年通り「能登展」を出展しました。現地を訪れたゼミ生による展示や、能登地域の物産販売などを行いました。能登展には、「毎年旅行で能登に行っていたのよ」と懐かしそうに語る方や、「復興の様子を知りたい」と関心を寄せてくださる方など、リピーターの方も含め多くの方がいらしてくださいました。

この活動を通じて、能登の復興を心から願う方々の思いの強さを実感し、私自身も今後、少しでも能登の力になりたいという気持ちが一層強まりました。

「細谷ゼミ」では、人と地域をつなぎ、地域の魅力を発信するだけでなく、ゼミ生一人一人が現地で感じたことを学びに変えることを大切にしています。今後も細谷ゼミでは、人とのつながりを大切にしながら、能登の魅力と今を多くの方々へ伝える活動を続けていきます。